

# 神葉

終戦五十年記念事業 パラオ慰霊友好団  
三重県神道青年会報 増刊号

写真提供 乙部 一巳氏

会報「神葉」

増刊号

平成9年3月31日

発行者 村尾 憲一

編集 総務広報委員会

発行所 津市鳥居町210-2

三重県神社庁内

三重県神道青年会



海を青山と散華された御英霊に今を生きる我々は、いったい何を申せば良いのでしょうか。何を示せば良いのでしょうか。

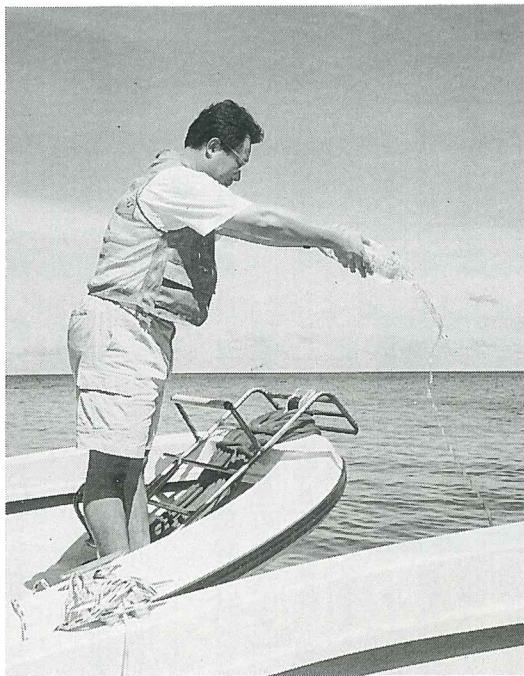
幕末の伊勢山田の志士、村松文三は、絶句「壁に題す」に埋骨豈惟墳墓地  
(骨を埋むるにただ墳墓の地のみならんや)  
人間到處有青山  
(人間到處有青山あり)  
と吟じました。死骸を葬むるは必ずしも祖先の墓のみに限らず、人間には到る処に青山は多く有るのだと…。

昨年、大東亜戦争終結五十年として、斯界を上げてさまざまな行事も本行なれれば昨年行われるべきであったのかもしれない。

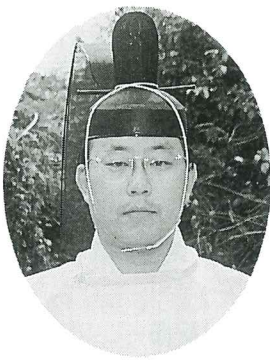
しかし、今、青年神職たる我々がするべき事は、過去・現在・未来をつないでゆく事があります。現在に生きる我々があるのは、過去の英霊のおかげであります。命を賭して護られた平和の中で生活させて

いただいた我々ができうる事は、未来に生きる子供達に正しい

最後にりましたが、今度の「三重県神道青年会パラオ慰霊友好団」の行事に対して、三重県神社庁各位の皆さま、神道青年会OB諸先輩、三重県庁国際課や乙部・岩名両県議会議員様、それぞれにお力添えを頂きました事、ご同行をいただいた御遺族の皆さまに厚く御礼を申し上げます。



ロックアイランドにおける献水式にて



# 青山は碧き海原

三重県神道青年会  
会長 村尾 憲一

「神風の伊勢の海に続くといえども、余りに遥けし南洋の地、今し、此処に立ちて青き空、碧き海を眺むれば、五十余年前の大戦はや想像だにせぬが」と御英霊の御前で拙い祝詞を読ましていただきました。

五十年余り前、美しき南洋の碧い

道を示して上げる事などではないでしょうか。今度のパラオ慰霊友好団は、先人への慰霊と子供達との友好を基として行わさせていただきます。

過ぎていった五十年の中では、ほとんど存在の無かった我々青年会のメンバーも、これからの五十年の中では価値ある存在であろうと思われまます。竹が節から次の節まで伸び出すとする始めの年である五十年目の今年こそが、新しい道しるべを示す今年こそが青年神職として行動するにふさわしい時であると考えた訳であります。また本年は、伊勢の皇大神宮ご鎮座二千年・神社本庁設立五十周年と斯界にとつての佳節と重なり、三重県とパラオ共和国が友好提携をも結ぶこととなり、まさに神々ごと英霊から与えられた機会に相違なしと意を強くしたのであります。



コロール島慰霊祭「朝日舞」



名古屋空港での結団式



大矢知廣声社楽人による雅楽奉奏



ペリリュー島における慰霊祭



無双直伝英信流居合道形演武



長倉神社 獅子舞奉納



パラオ高校長へ交流品のプレゼント



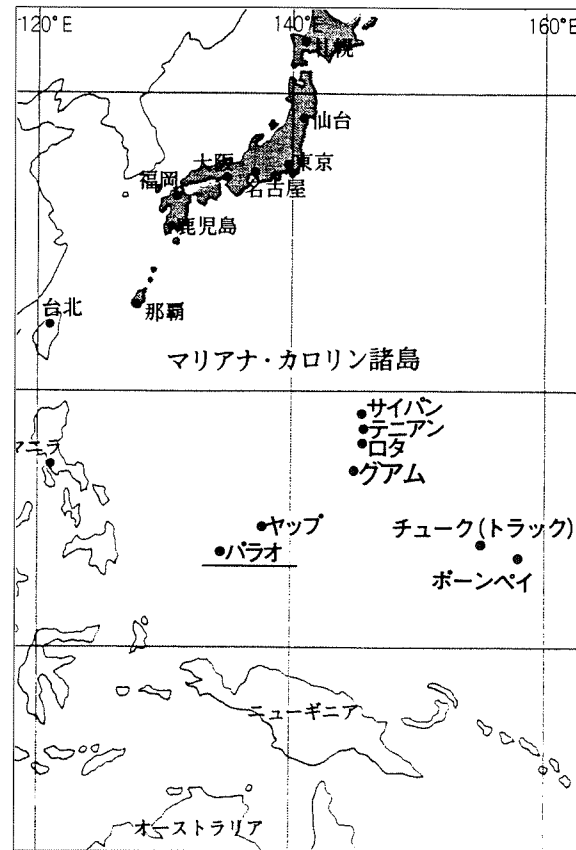
気迫を込めた日本剣道形演武



# パラオ慰霊友好団行程表

日 時	時間	日 程
1日目 9月25日(水)	9:00 11:00 15:30 19:00	名古屋空港にて結団式。 JALチャーター7945便にて出発。 パラオ着。 神青会員ミーティング。 【パラオ パシフィックリゾートホテル 泊】
2日目 9月26日(木)	9:00 10:15 13:15 15:35  (18:30頃)	ホテル出発。 コロール島慰霊公苑日本人墓地にて慰霊祭斎行。 南洋神社参拝・パラオ島内見学。 神青会員は翌日の文化交流開催予定のパラオ高校、親善訪問予定のミュージズ小学校を下見。 KBブリッジ崩落事故発生。 【パラオ パシフィックリゾートホテル 泊】
3日目 9月27日(金)	15:00	前日のKBブリッジ崩落事故の為全学校が休校となり、パラオ高校日本文化交流会、ミュージズ小学校親善訪問は中止。 終日自由行動。 神青会員はパラオ文部省表敬訪問。 【パラオ パシフィックリゾートホテル 泊】
4日目 9月28日(土)	9:00 11:00 11:30 16:00 18:00 20:00	チャーター船にてペリリュー島へ出発。途中海上にて献酒・献水・献花式・黙祷。 ペリリュー島着。島内視察。オレンジビーチ、司令部跡等各戦跡。 国立平和記念公園にて慰霊祭斎行 ロックアイランドにて自由行動。 ホテル着。 エリライレストランにて現地の方々を交えて座談会。 【パラオ パシフィックリゾートホテル 泊】
5日目 9月29日(日)	10:00 13:40 20:30	ホテル出発(ポート・バスにて空港へ) JALチャーター7946便にて出発。 グアム経由にて名古屋空港着。 解団式。解散。

# パラオ共和国



日本との位置関係図

中部太平洋、ミクロネシアのカロリン諸島に位置する共和国。国土は三四〇程の火山、珊瑚礁島が六四〇kmにわたって連なる。主島のバベルタオブ、コロール島は、フィリピン東方九〇〇kmに位置する面積四八八km。  
暫定首都はコロール島のコロール(人口九〇一八人 一九九〇年)

だが、バベルタオブが恒久的首都に予定されている。公用語はパラオ語と英語。  
◎宗教  
カトリック 四〇・八％  
プロテスタント 二四・八％  
伝統信仰 二四・八％  
その他宗教 九・六％  
(一九九〇年統計)

# 歴史概要

パラオは一五四三年スペインが発見して統治し、その後、一八九九年ドイツが買収した。第一次世界大戦で日本が占領し、その後委任統治下に置かれ、南洋政策の中心としてコロールには南洋庁が置かれていた。  
大東亜戦争後の一九四七年より、国連の信託統治領となりアメリカが信託委任統治してきたが、一九八一年に自治政府が発足、核の使用・貯蔵・処理を禁じた非核条項を含む憲法を公布した。  
一九九四年一〇月一日、アメリカと結んだ「自由連合協定」は発効し、安全保障条約を除く自治権と限定的な外交権を持つ「主権国家」として独立した。初代大統領のクニオ・ナカムラ大統領は暫定首都のコロールで催された独立祝賀式典で、「パラオは今日、信託統治という安全な港から、国際社会の新しい一員として世界に船出した。我々は英知を発揮して国際社会と協力し、みずから下した決

断と責任に責任をもとう」と決意を表明した。  
また十二月十五日の国連総会でパラオは一八五番目の加盟国となった。  
ナカムラ大統領の父は、三重県伊勢市大湊出身の船大工で、戦前にパラオに魅せられ移住、現地の女性と結婚し五男三女をもうけた。  
クニオは末弟で、昭和一八年ペリリュー島で生まれ、ハワイ大学卒業後、高校教師をしていたが、二十五歳の時地方選挙に出馬、その後アメリカ高等弁務官補佐、上院議員副大統領を経て平成五年に大統領に就任。「父の生地には私の魂がある。毎年墓参りをしたい」と、ほぼ毎年日本を訪れる。



# パラオ慰霊友好団

## 各班報告

### 総務班

「終戦五十年にあたり神青会員で海外慰霊祭を斎行し、御英霊の御心を慰めたい」という村尾会長の希望を聞いた時、正直難しいのではと懸念したが、会長の熱い情熱と強い決意に打たれ、その準備に取り掛かった。

平成八年三月の役員会でこの構想を議したが、予想通り実現への難しさを心配する声が多かった。その中でとある髭の理事に「そんな心配しとらんと、いっぺんやってみましょに」の一言で全員納得して事業にあたる事となった。

海外慰霊祭については、他県の神青会でも既に実施されているところも多く、一味違った事業にとの声もあり、単に戦跡での慰霊祭と周囲の観光というパターンにとられず、参加会員の心に新たな意識を生み今後の活躍につながるものにしたかった。

海外慰霊祭の目的として  
一、御英霊の御霊を安らかに慰め  
二、御英霊の心を心として現地の  
人達との交流を深める  
三、若く経験の少ない会員の英霊  
奉斎への意識を深める  
の三点をかかげた。

海外慰霊祭の場所検討については色々な国が候補に挙がったが、現地の人々の日本特に御英霊への理解が今なお深い  
・大東亜戦争時に戦史に残る激しい玉砕戦があった  
・現大統領の父親が伊勢市出身である  
・今年三重県と友好提携を結ぶという点より、太平洋にうかがふ島のパラオ共和国に決定した。

そして慰霊祭を、暫定首都コロル島と玉砕地ベリリュー島の二箇所で行い、さらに両島間の洋上に於て、三重県から御神酒や清水等を持参して献酒・献水・献花式

で行うこととした。またこの慰霊祭には、現地の人々を招待し、さらに三重県出身の戦没御英霊ご遺族も参加参加して頂く事も合わせて決定した。

この慰霊祭には、村尾会長の兼務神社である四日市市大矢知の長倉神社の楽人の方々もこの主旨に賛同して頂き、同行して雅楽の奉奏さらに長倉神社の獅子舞も奉納して頂く事となり、祭典の内容が一層充実していった。

また交流会に於ても、会員の中で経験者を選抜し、舞楽、剣道形や居合道形をパラオの人々に披露紹介し、相互理解の交流に努めることとなった。また、パラオの高校や、小学校を訪問し、日本の郷土玩具、竹馬・けん玉・こま・風船・達磨落とし等で子供達と遊びながらふれあい、日本への文化的興味が湧き、今後の交流のきっかけとなる行事も計画した。

日程については、当初神社界が比較的暇な、八月下旬を予定していたが、準備期間の短さと、パラオの学校が（一年中真夏なのに）夏休み期間中であつたので、日航の臨時チャーター直行便との関係もあり、九月二十五日より、四泊

を行うこととした。またこの慰霊祭には、現地の人々を招待し、さらに三重県出身の戦没御英霊ご遺族も参加参加して頂く事も合わせて決定した。

深く感謝し、今後の活動に更なる励みとなった。

参加者もほぼ予定通りの人数となり、準備も大詰めとなり、あわただしくなる。各班・会員の準備分担も細かく決定してゆく。

九月十四日には、三重県護国神社にて参加者説明会を開催し、初めて参加者が一堂に会した。そして護国神社の御神前に『パラオ慰霊友好団』の出発奉告祭並びに安全祈願祭を斎行する。

現地の宮下氏や、荒木君と何度もFAXでやり取りを行うが、日本とパラオとの生活習慣のギャッ

プの大きさに戸惑う面も多かった。出発五日前には山の様な祭典用具や交流会・各学校へのお土産物の梱包作業を終え、いよいよ二十五日の出発の日を迎えた。

3月11日	第9回役員会 構想説明 原案作成承認
3月下旬	原案作成（日時・目的・意義・内容・費用等）
4月19日	定例総会 趣旨説明
4月30日	三役委員長会 提出内容検討協議 特別プロジェクト結成 （渉外班、祭典班、交流班）
5月9日	県国際課訪問面談 訪・趣旨説明 政府要人面談依頼 岩名県会議長、乙部県議員 面談挨拶協力依頼
5月16日	第1回役員会 計画案審議決定 趣意書・要項作成 協力依頼書作成 パラオ下見訪問
5月25～29日	村尾会長・伊藤副会長 大統領特別補佐官・文部大臣面談 パラオ高校校長挨拶 パラオ要人面談 南洋神社等祭場下見 ビデオ撮影 ガイド依頼

五日とした。

パラオでの慰霊祭・交流会・学校訪問を行うにあたって、現地に何のつてもなかったので、きっかけとして、当時パラオと友好提携を進めていた三重県庁国際課を訪問し、事情を説明し、協力を依頼したがあくまで民間交流ということで色好い返事がもらえなかったが、三月に三重県パラオ視察団の副団長としてパラオを訪れた岩名県会議長（当時）、ナカムラ大統領とも親しい乙部前県会議長の口添えで現地の方々と話を進めることが出来た。

五月には、村尾会長（海外旅行初体験）と以前パラオに行ったことのある伊藤副会長が、下見調査にパラオに渡った。数々の困難の末、現地に文部省を訪れ、大統領特別補佐官・文部大臣・パラオ高校校長と面談し、事業の説明をして協力を要請した。また、現地を視察して、コロル島とベリリュー島での慰霊祭場も決定した。今後のパラオでの交流会の準備と祭場の準備・当日のガイドには松阪市出身で、現地のダイバーのインストラクターとして活躍している好青年荒木知秋君に依頼することが

できた。全く畑違いの依頼にもかかわらずこの心意気に賛同して快く引き受けてくれ会長共々非常に嬉しく思った。

慰霊祭交流会等の内容を役員会で何度も練りながら準備を進め、七月には参加者の募集を始める。

また、ナカムラ大統領とは、三重県との友好提携の調印の為来県した折に、岩名県議の紹介で四日市近鉄百貨店でのパラオ展会場において面談することが出来、その趣旨を説明した。また前日には、津都ホテルにて乙部県議の紹介で大統領同行の宮下政府顧問と面談する機会を得、大統領特別補佐官と共に全面的に協力して頂ける約束を得た。

神社関係者神青OB諸氏にも協力を依頼した。深く、深いご理解をいただき、県内外より多額のご厚意を受けたことに、会員一同有り難



ナカムラ大統領（左2人目）と岩名県会議長と



乙部議員に宮下氏を紹介していただく

6月7日	第2回役員会 具体的日程案・下見報告
7月2日	第3回役員会 日程案提出
7月初旬	準備役割分担子細協議 趣意書、協力依頼書並び派遣申請書案提出 趣意書参加申込書完成
7月初旬	募集開始 神社庁長、参事挨拶 遺族会趣旨説明
7月24・25日	ナカムラ大統領来県 『パラオ共和国・三重県友好提携調印』 宮下政府経済顧問面談
7月26日	協力依頼 ナカムラ大統領面会 挨拶趣旨説明
7月27日	県内神社関係協力依頼
8月初旬	第4回役員会 日程、慰霊祭子細検討
8月1日	募集締切
8月15日	日程、各役割分担子細決定資料作成 第5回役員会
9月14日	参加者説明会 ビデオ上映 三重県護国神社参拝 出発奉告安全祈願祭斎行

### 祭典班

昨年、終戦五十年という歴史的な節目を迎え、又本年、三重県とパラオ共和国とが友好提携を結んだ縁を尊び、神道青年会では激戦の地・パラオに於いて、戦没者慰霊祭が慰霊団二十七名のもと九月二十五日より二十九日迄、四泊五日の日程で行われました。

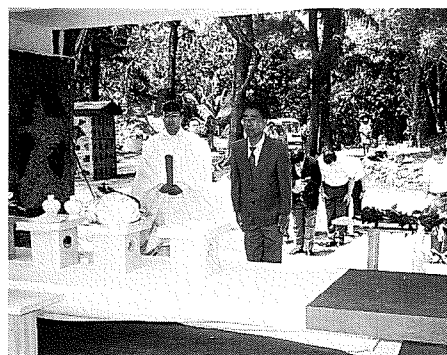
パラオは常夏の島であり、突如スコールが来たかと思うとすぐ強い日差しが照りつけるという南国特有の気候であります。

幸いスコールの心配もなく、まずコロール島慰霊公苑（日本人墓地）に於いて慰霊祭を斎行。ナカムラ大統領の御参列こそ得られませんでしたでしたが、代理として大統領特別補佐官・サルバドル氏、経済顧問・宮下一雄氏、更に政府顧問・イナボ・イナボ氏とパラオ政府関係者を始め、多数現地の方々との御参列を賜り、厳修のうちに齋行することができました。私達の想像をはるかに上回るパラオ人の参列に強い感動を覚えました。また祭典中、七人の楽師が奏でるそれぞれの音色は厳肅なお祭のムードを更に盛り上げ、遺族の方々に

もお喜びいただいたものと拝察致して居ります。

翌々、二十八日には、慰霊団二十七名、三隻の船に分かれペリリュー島へ移動。途中、エメラルドグリーン洋上、献花式が執り行われた。お国の為に尊い命を捧げられた方々に心から御冥福をお祈りし、次いで会長・村尾憲一により天の岩戸（磯部町）より汲み取った清水が、更に遺族を代表してタカハシ酒造・高橋睦夫様により丹精込めて造られた清酒がそれぞれ捧げられました。最後に慰霊団二十七名により、各々の思いを託した花が洋上に捧げられました。遺族の方々の深い思いから自然とあふれ出る涙は、また島々における幾多の激戦の跡をとどめた姿は、万感胸に迫りくるものがありました。

ペリリュー島国立平和記念公園内に於いては、まさに太陽の激しく燃え盛るなか、慰霊祭を斎行。祭典のなか、御英霊の前で楽師自ら獅子舞を、更には日本刀を取り、古式に基づき居合道、剣道の奉納演武と、抜刀する腕に体に熱いものを感じた次第です。遺族の方々一人一人に玉串を御奉奠いただき、



ペリリュー島慰霊祭“遺族祭詞奉上”



パラオ政府経済顧問宮下氏の玉串拝礼

慰霊の儀滞りなく納めさせていたできました。

このパラオ慰霊団に参加させていただき、今私達が平和な日々を過ごさせていただいている事を改めて深く感謝を祈念した次第であります。この意義ある南洋諸島パラオ慰霊祭は終生忘れることのできないものと思つて居ります。

9月10日

班長会  
各班役割分担進行報告

9月20日

班長会  
最終準備各荷物梱包確認

9月25日

パラオ慰霊友好団出発  
結団式（名古屋発着）  
コロール島パラオパシフィックリゾートホテル到着。  
慰霊祭準備、ミーティング。

9月26日

慰霊祭斎行。  
（コロール島慰霊公苑日本人墓地にて）  
参列者三十三名。  
コロール島内巡拝見学。

9月27日

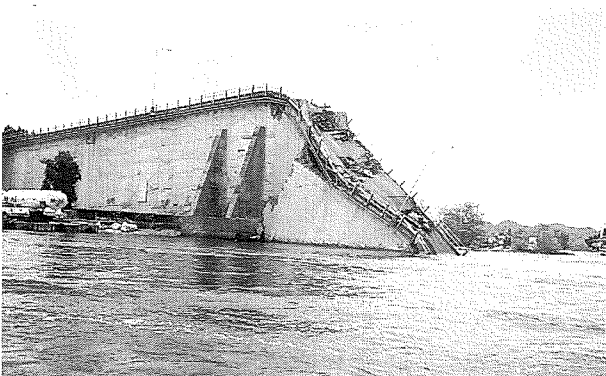
パラオ高校現場下見。  
ミューンズ小学校下見。  
午後六時半頃KBブリッジ崩落事故。  
現地人死亡一名を含む重軽傷者数名有。  
島内停電、断水、電信不通。  
昨日の崩落事故の影響で学校関係臨時休校の為文化交流会、親善訪問中止。  
パラオ文部省表敬訪問、日本の玩具、文具等寄贈。  
慰霊祭、献花式準備。

### 交流班

交流班は、現地各学校への親善訪問の手順や交流会の設営準備と各お土産品等の手配をした。

現地での活動と言葉の問題について一番心配していたが、三重県より日本語指導員としてパラオ高校に派遣されている玉井玲子さんが、学校訪問・交流会等に通訳を始め全面的に協力して頂く事となり、一同ほっとした。

パラオ高校では、各色チョコレートが不足気味との事、早速用意する。また玉井さんより、ポケットティッ



日程変更を余儀なくされたKBブリッジ崩落事故現場



パラオ文部省にて交流品の贈呈（パラオ高校長と玉井教諭を交えて）

シュが手に入らず困っていると聞き是もあらちちから掻き集めた。他に、ボールペン・定規等の文具や、他にお土産として、扇子・日本手拭い・風呂敷・団扇・絵馬等も各神社の御好意で準備することができた。

交流会で、現地の方々はこの意義を理解して頂くとうと、神社本庁発行『神道』の英訳版リーフレット二〇〇部や、交流会の内容や獅子舞等の紹介英文パンフレットを八〇〇枚作成し持参した。

日程、三日目パラオ高校での日本文化交流会並びにミューンズ小学校親善訪問が前日のKBブリッジ落下事故により臨時休校となった為やむなく中止せざるをえない状況となった。

会員・楽人の準備・打合わせ・練習等、前日までの苦労が腰砕けの状態となったが、急遽、交流会で予定していた舞楽・剣道形・居合道形等はペリリュー島の慰霊祭に奉納行事として行い、小学校高校の親善訪問用に用意してきた日本の郷土玩具・文具等は、文部省を訪れ寄贈することとなった。寄贈に当っては、会員等がそれぞれ得意とする玩具を手にとつて実演してみせ笑いも出る和やかな一コマもあった。

前日の下見の折りに接した高校生達の人なつこさを思い返すと、橋の崩落事故は非常に残念なアクシデントであった。

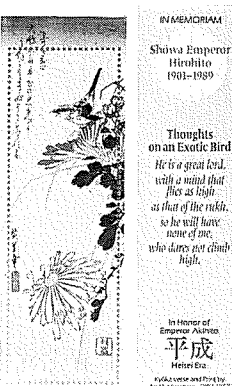
同夜の交流座談会では、地元サクラ会の方々と同行した遺族の方々との会話が続き中、サクラ会の懇切丁寧な受答えに感謝しつつ戦時中のパラオの状況等について少しでも知りたいとの願いがひしひしと伝わるものがあつた。

9月28日

ペリリュー島へ出発。  
途中海上にて献酒・献水・献花式・黙禱。  
ペリリュー島内巡拝視察。  
慰霊祭斎行。（平和記念公園にて）  
ロックアイランド経由にてコロール島帰着。

9月29日

パラオパシフィックリゾートホテル出発。  
崩落事故の為途中船を利用して空港まで移動。  
途中燃料補給の為にグアム島経由。  
名古屋空港到着後解団式。



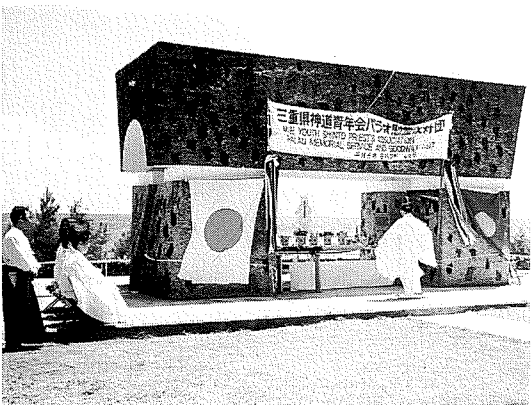
IN MEMORIAM  
Shinto Emperor  
Hirohito  
1901-1989  
Thoughts on an Exotic Bird  
He is a great bird,  
with a mind that  
flies as light  
as that of the rickshaw,  
so he will have  
none of me,  
who dares not climb  
high.  
In Honor of  
Emperor Hirohito  
平成  
Hirohito  
Hirohito was and First by  
Mitsuo Nagano, 1989



# 慰霊祭祭場の概要



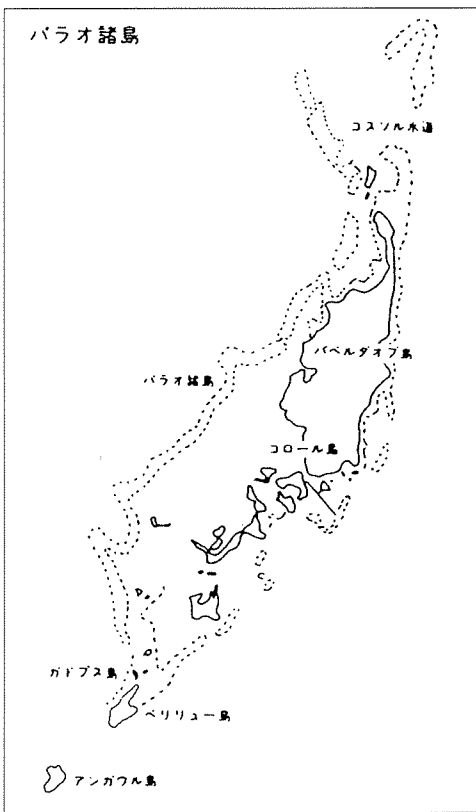
ペリリュー島「平和記念公園」  
 コロール島「パラオ慰霊公苑」  
 ペリリュー島守備隊、アンガウル島守備隊を含めたパラオ地区守備隊の戦没者を祀る慰霊公苑で、段丘地の日本人墓地の上段から中段にかけて、第十四師団関係者が建立した慰霊碑のほか平和の礎、沖繩の塔など多くの記念碑が建立されている。下方には白蝶貝採業殉職者慰霊碑がある。これは大東亜戦争前に行われていた真珠養殖の犠牲者の慰霊碑である。



パラオ諸島付近での戦闘で戦没された日本陸海軍兵士及び軍属は一万余柱を数える。そのうち三重県護国神社合祀祭神柱数は約二百六十柱。旧官幣大社南洋神社跡地に南洋神社が創建され、ペリリュー島・アンガウル島にも玉砕日本軍兵士を祀る神社がそれぞれ創建されている。  
 また、近年には、パラオ挺身隊としてニューギニア方面に日本軍と同行し亡くなったパラオ人二十一柱を祀るパラオ靖国神社も南洋神社横に創建された。パラオ各地には、各部隊・英霊ゆかりの人々の手による慰霊碑・忠魂碑・記念碑等がそれぞれの場所に建立されている。その数は三十基以上に及ぶ。



今もペリリュー島戦跡に残る旧日本軍戦車の残骸



# コロール島・ペリリュー島慰霊祭次第

## コロール島慰霊公苑

九月二十六日

当日早旦祭場を装飾し祭具を弁備す

時刻齋主以下祭員及び遺族参進

時刻齋主以下祭員及び遺族所定の座に着く

次に修 祓

次に招 魂

次に祭員神饌を供す

次に齋主祝詞を奏す

次に楽を奏す『朝日舞』

次に齋主玉串を奉りて拝礼

次に参列員玉串を奉り拝礼

次に祭員神饌を撤す

次に送魂

次に直会

次に各退出

### 慰霊祭所役

齋主 村尾 憲一

祭員 嵯峨井和風

” 福田 和人

” 平野 直裕

典儀 種村 睦

祓主 陪膳 警蹕所役

祝詞後取

塩場 玉串後取 前導所役

当日早旦祭場を装飾し祭具を弁備す  
 時刻齋主以下祭員及び遺族参進  
 時刻齋主以下祭員及び遺族所定の座に着く  
 次に国歌斉唱  
 次に修 祓  
 次に招 魂  
 次に祭員神饌を供す  
 次に齋主祝詞を奏す  
 次に遺族祭詞を奏す  
 次に楽を奏す『朝日舞』  
 次に神賑行事を奉納  
 次に齋主玉串を奉りて拝礼  
 次に参列員玉串を奉り拝礼  
 次に祭員神饌を撤す  
 次に送魂  
 次に直会  
 次に各退出

## ペリリュー島平和記念公園

九月二十八日

当日早旦祭場を装飾し祭具を弁備す

時刻齋主以下祭員及び遺族参進

時刻齋主以下祭員及び遺族所定の座に着く

次に修 祓

次に招 魂

次に祭員神饌を供す

次に齋主祝詞を奏す

次に遺族祭詞を奏す

次に楽を奏す『朝日舞』

次に神賑行事を奉納

次に齋主玉串を奉りて拝礼

次に参列員玉串を奉り拝礼

次に祭員神饌を撤す

次に送魂

次に直会

次に各退出

### 慰霊祭所役

齋主 村尾 憲一

祭員 種村 睦

” 嵯峨井和風

” 原 忠照

典儀 伊藤 智

祓主 陪膳 警蹕所役

祝詞後取

塩場 玉串後取 前導所役

是より先手水の儀あり  
 祭員列拝  
 此の間奏楽  
 此の間諸員警折

此の間奏楽  
 此の間警蹕諸員警折

### 政府関係参列者

- 大統領特別補佐官
- 経済顧問
- 政府顧問
- 政府顧問

- サルバドル氏
- 宮下 一雄氏
- イナボ・イナボ氏

### その他参列者

- オキヤマ・トヨミ女史始め十数名

### 神賑行事奉納者

- 日本剣道形
- 無双直伝英信流居合形
- 獅子舞

- 伊藤 智 山路 太三
- 福田 和人
- 長倉神社楽人

コロール島 慰靈祭祭詞

常夏乃島々々爾團麻志バオ共和国コロール島バオ慰靈公苑乃処平飯乃  
齋場登被清米氏招奉坐留掛介麻父母畏御英靈等乃御前此度遙々登日本國島里  
三重島里訪礼志 三重県神道青年会バオ慰靈友好団二十七名乃諸人等  
心乎清身乎淨米慰靈祭任奉良登拝奉留齋主三重県神道青年会會長村尾憲一  
謹志美敬比母恐美恐美母白 左

阿奈志志後加母思比返世波汝命等先乃大東亜戦争尔砌雄々大御国予謀留登或波愛其志  
妻子登別礼任憤礼志故郷乎出立志志勇奮比臣軍尔從比南乃島尔海爾空尔苦志久登  
忍比乏志波尔堪返那々身乎忘礼様々尔勞後千々尔戰比未終尔惜志母御命乎祖国尔倭介  
給比熱々尔思返波戰起里志互尔敵志戰而波人登志此乃上無後禍登言而後悲志後母歎波志後  
事乃極奈里我等此度三重県登バオ共和国友好提携乎記念志又戰後五十年乃  
過後志期尔接志此乃地乎訪礼御前尔御饗物乎献奉里有志志時乃乃勞苦乎徳比奉里数々乃

御功績称返奉里慰靈乃御祭任奉留明後清後真心乎御心足比尔受介給比底今由  
住先世界乃乃乃國々諸共尔安乎平和在良業里給比殊比底母此乃バオ共和国登日本國  
三重県乃人々乃睦交里行久未見守導給比登恐美恐美母白 須

限里奈里然打母汝命等波靖國・護國乃千木高久仰賀礼宮柱動又事無久祀良礼人給比底其乃  
芳志後崇誉後乃世麻母伝世乃鏡國民乃模範尊禮給而後希里百日八十日日  
在礼拜母 九月二十八日今日乎生日乃足日登定御前尔伊勢乃國与里持知寄里志  
御食御酒水乎始米種々乃物乎献奉里染乃音線乃木々尔染入留中玉串捧介拜奉里  
往時乃乃勞苦乎徳比奉里御勲功乎称奉里荒木乃真弓一筋乎天翔里國翔里里里登  
御心母良介久安良介久熟良聞食志相諾比坐志底今乃日本國三重県乃乃バオ



ペリリユー島 慰靈祭祭詞

神風乃伊勢乃海原尔続久登言留科皇國与里遙尔南碧波海中尔留緑多後ペリリユー乃  
島内アンガウル乃島見西太平洋乎眺乎望乎平和記念公園乃処尔神籬差立底招  
奉里坐奉留御英靈乃御前此度遙々登日本國与里訪礼志若神職等留集閉留三重県  
神道青年会バオ慰靈友好団々長村尾憲一謹美敬比母白 左

今志此処尔立知底碧波海原青波大空乎眺乎望五十年余前乃大戦跡想像尔志留買故汝  
英靈等尔波皇國乃御盾登御召志受介戴比底各母各其乃受得多留清後心乃随尔己爾身母  
心尔忘礼様々尔勞後此処乃地守護尔世登登千々尔戰比給而事波貴後勇安尔志右礼婆島乎  
好美氏乎愛留防人等乃負比持部務尔勤給比禮留尔恰母昭和十九年九月十五日尔  
戰始里急尔進功賀事起後美志後緑乃島里煙砂埃尔包美雨乃如久飛里来留敵乃矢玉母  
物登世受右波戦法乎願志持久尔食無後水無後或波華母彈丸無久洞穴尔七十余日母  
堪敵尔震撼世志米多尔乃仇共打知徳里米給而希里十一月二十四日尔哀礼數島乃

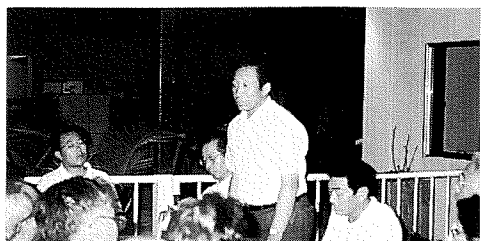
大和桜登散里身波失世給比志加波阿奈情志登母悲志登母悔志登母有留遺礼留たらちね乃親・  
妻子・兄弟乃悲志思比波皇國乃為尔生命献尔神昇里永世尔徳比尊里許里里美志後  
限里奈里然打母汝命等波靖國・護國乃千木高久仰賀礼宮柱動又事無久祀良礼人給比底其乃  
芳志後崇誉後乃世麻母伝世乃鏡國民乃模範尊禮給而後希里百日八十日日  
在礼拜母 九月二十八日今日乎生日乃足日登定御前尔伊勢乃國与里持知寄里志  
御食御酒水乎始米種々乃物乎献奉里染乃音線乃木々尔染入留中玉串捧介拜奉里  
往時乃乃勞苦乎徳比奉里御勲功乎称奉里荒木乃真弓一筋乎天翔里國翔里里里登  
御心母良介久安良介久熟良聞食志相諾比坐志底今乃日本國三重県乃乃バオ

共和国乃乃上尔奇志後嚴志後御靈幸給比登恐美恐美母謹美拜奉良登白 須

参加者寄稿

私、先般三重県神道青年会会長を始め皆様の熱い情熱によって現地に於て慰靈祭を斎行していただき遺族として感謝し、心に深く感動いたしました。

終戦五十年を昨年迎え、思い返せば、私の父は所属部隊名(特設第三十四機関砲隊)南洋群島パラオ島コロール第二百二十五兵站病院に於て戦病死と



地元の方々に挨拶する中村氏

また、友好交流会に参加して、私達遺族に対して人情豊かで明るいパラオの方々へ接することが出来て、改めて満足感を与えていただき感謝の念で一杯です。また、激戦地ペリリユー島戦跡

を訪問して、日々、パラオの住民の心に英霊の心が行き続けていると感じました。

パラオの海は、どこまでも碧く海岸線は日本の、まさに志摩の海を現地にながら思い浮かべる程で、親近感を覚えました。

新しく三重県との友好関係が結ばれ、より一層の両国の交流が親密になるよう祈りたいと思います。津市 中村文一



ペリリユー島慰靈祭にて木崎・中村両氏

慰靈祭当日ペリリユー島の祭壇にお供し終了後撤供しました。帰国後現地や慰靈祭神事神賑行事等の数



パラオの人々に慰靈の気持ち語る木崎氏

枚の写真と現地採取の珊瑚礁の断片を渡し、現地の友好集いに女酋長オキヤマトヨミさんの話特にこの島での戦闘直前、直後の大変貌を具に話したところ彼女は大変に感激され『終戦以来五十一年主人の戦死した所のが判り心が安らぎました』と云はれました。私は敬神生活の綱領の一節世の為人の為に奉仕し云々を思い出しました。暑い太陽の下で厳肅な慰靈祭を幾度も斎行され神賑行事にて御英霊を慰められた三重県神道青年会の方々の御苦労に対し深甚の謝意を表すと共に、将来を背負って立つ若人へ御英霊を末長くお祀りし御功績を伝え国の発展の礎石となられたことに感謝の念を忘れないうよう伝えて欲しいと痛感致しました。鈴鹿郡関町 木崎 雄二郎

此の度のパラオ慰霊祭に参加させて頂き永年の思いをはたせ喜んでいきます。終戦五十年が過ぎた今尚パラオ住民は日本に対する好感を持ち続けていることにはうれしく思いました。島は今も開発されず自然のまま又住民にもおもかげが残っている様に見え観光と慰霊友好を共にして行くと良いかと思えます。荒木さんの話によると僕が見てほしいところが澤山あるが今回は出来なかった次回は案内させて頂きますとのことでした。楽しみにしていますから表現させて頂き下さい。

志摩郡阿児町 加藤 修幸・すみへ



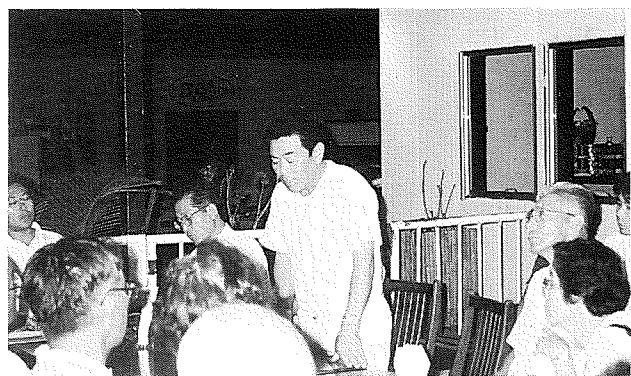
ペリリュー島慰霊祭で玉串拝礼をする加藤夫妻

パラオ慰霊友好団参加して

戦後五十年を迎えた意義深い年に、パラオと三重県が友好提携を結んだ事は、大変よろこばしいと思います。この度三重県神道青年会主催のパラオ慰霊友好団に参加させて頂きいただきました。私は妹と二回目の慰霊となりましたので比較的气持ちにゆとりを持った旅でした。今回は島の老人達と、座談会を持ち和やかに、お話を聞く事が出来ました。私の父は昭和二十年パラオ島で戦死しましたが海軍でしたから食糧がなく餓死と聞いておりましたので、もっと詳しく知りたいとお訪ねしました。やはりその通りいろいろと聞かせて下さり、当時を忍び、日本は今食糧の溢れる程の豊かさを感じ、水も食もなく暑さに負けて貴い命を落として行った父が切なく可哀想で胸が熱くなる思いがします。あの忌まわしい戦争から五十年という長い月日が過ぎ私達も五十路半ばが過ぎ子育ても終り健康で今日を過ごさせて頂いておりますが、幼子を抱えて苦労育ててくれた母を想うとその母は今が高齢で病の身となり毎日を一生懸命生き

神道青年会の皆様ありがとうございました。

名古屋市長 米澤 文男



交流座談会での米澤氏

パラオ慰霊友好団に参加して

此の度三重県神道青年会の戦後五十年、日本平和の永遠の祭祀として三重県と友好提携を結ぶパラオで大東亜戦争戦没者の慰霊祭斎行へのお招きをいただき他の御遺族のかたがたと御一緒に参加出来ること深く感謝しております。パラオのコールとペリリューはぜひ一度行っ



パラオ国立博物館前のアバイにて

ておりますが父の分までも長生きしてほしいと願っています。パラオの海はコバルトブルーの色をして魚が泳いでいるのが見える大変美しい自然が一杯の所です。スキューバダイビングは世界一と云われる程で多くの人々が訪れます。そのきれいな海にも激しい戦いで多くの犠牲者が出た事、今の若者達にも忘れないでほしい、その為にも私達は二度と悲劇を繰り返さない様、語り継がなくてはなりません。今後絶対に戦争が起らない様に平和が長く続く事を祈ります。コール州首長イナボ・イナボ氏が語っておられます



ホテル玄関前にて中上・市川姉妹

たが、祖国を守る為尊い生命を若くして捧げた戦没者に「なぜ」日本の首相や大臣が靖国に参る事を批判するのか「なぜ」「なぜ」もっと尊敬をもって堂々と胸をはって参り出来ないのかと云うお話に感銘を覚えました。公式参拝にはいつも批判的になるのは「なぜ」か私も疑問に思い悲しくなります。今日の豊かな日本があるのもあの戦争の犠牲の基にある事を深く心にきざみパラオと日本がより発展する様祈ります。

四日市市 中上 さよ・市川ちか子

パラオ慰霊友好団に、参加させて頂いたとき、パラオの地で、慰霊祭に、参加出来まして私の五十年来の親父への思いを、新たに致しました。長男である私といたしましては、パラオ島とよく耳にはしますが、どのような島で父は、どのような所で戦死をしたのか、年を重ねる程に思いはつのるばかりでございます。慰霊祭には、現地の方々も、多数参加下さって神道青年会の皆様には、感謝でいっぱいです。

又ペリリュー島に渡り戦い跡の見学、墓参り、日本兵は、遠くまで来て戦ったのだなあと、小さい頃父のいない淋しさをつくづく味わった頃を思い重ね無量な気持ちになり、多くの犠牲を無駄にする事なく二度と戦争のない平和な日本であってほしい、現地の人々との座談会をお聞きし、当時の様子を想像し胸が熱くなりました。

親父は、この島で戦死し、海軍墓地で奉られている事を信じ、若くして逝った親父の分まで、しっかりと生きぬく事を誓って帰って参りました。

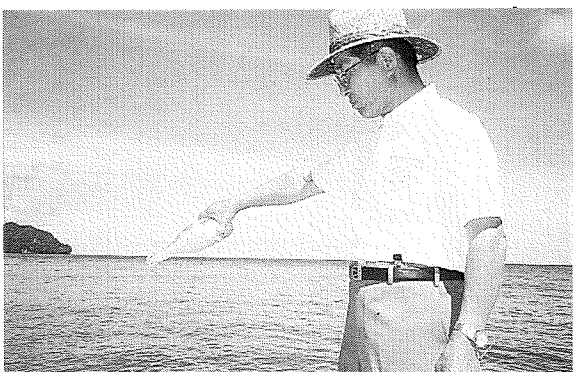
今後共このような機会に、ぜひ参加したいと存じます。色々な面でお世話になりました会長様始め



ペリリュー島慰霊祭での山本・米澤両氏

てみたいと思つて居りましたので長い間同じ思ひで御苦労された皆様かたと現地で慰霊公園を廻り自分で見聞きたことにより心の中でひとつの区切りがきました。私はパラオに特別な思ひがありました。父は戦前真珠養殖を始め基礎が出来た頃に戦争がはじまり軍拡と共に物資は統制され「贅沢は敵」で養殖が出来なくなりました。

戦争が終れば真珠は売れると信じていた父は南洋での真珠養殖を夢見て昭和十八年春コールに渡り十九年七月現地召集、同年十二月三十一日ペリリュー島で戦死。運命のいたずらに憤りを感じます。



ロックアイランド洋上にて郷土の銘酒を献酒する山本氏

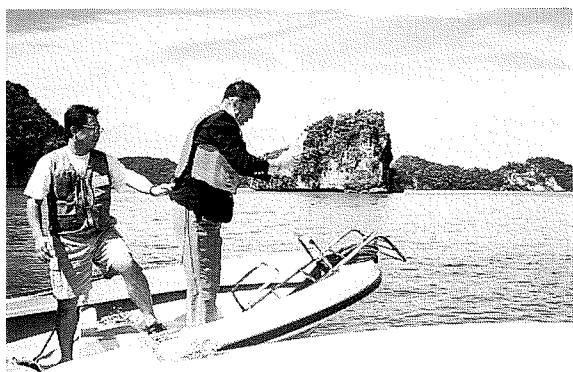
今回パラオに行つて改めて戦争の無惨さ、平和の尊さを教えられました。戦争で筆舌につくしがたい体験をされながら日本を憎まず好意をもって迎え下さり慰霊公園を管理下さる心にゆとりを持つ現地の人々に接して父の南洋への想ひの一端を見た様な気がします。戦争の遺物も記念物として残る位で海はどきどきでも青く澄み渡る島々が幾百と点在する海幸多いパラオいつ迄も平和であることをお祈りすると共にこの企画に御尽力下さいましたかたがたに心から御礼申し上げます。

志摩郡志摩町 山本 靖明



「私の戦後五十一年目」

本年は戦後五十一年目と云う歴史の大きな節目であり伊勢神宮ご鎮座二千年と云う記念すべき年でもあります。この意義ある年にパラオ共和国を訪問致し慰霊祭に参列させていただきました事は生涯忘れる事の出来ない感動でした。この催しを計画いただきました三重県神道青年会の村尾会長を始め皆様に心から感謝申し上げます。



高橋氏海へ献酒する父の亡きにむせび感涙

さて私の戦後をふりかえりますと幾多の悲しい出来事も、すべてあの美しい太平洋の海に消え去りま



待っておりまして。その仕事は父もかつて昭和八年より応召するまでたずさわった神酒「三重の新嘗」の仕込です。昭和八年より数えまして本年は第六十四回目の仕込を無事に若い世代でやりとげてくれました。昭和十八年戦死した父の孫「高橋伸幸」が若き杜氏として職責を果し十一月八日無事に「醸終祭」が斎行され父もさぞかし喜んでるものと思えます。これにてパラオ訪問手記としま

四日市市 高橋 睦 夫

今回パラオにて兄貴の慰霊祭が行はれる事を加藤君より聞き、自分もパラオ共同水産に就職する事になっていたので同行させて頂きました。思えば昭和十九年初め共同水産を断念して予科練に行つた為今日の自分の姿があります。運命の綾と云いますか感無量のものがあります。

参加者名簿を渡された時、神道関係者の多いのに驚き、どの様な神事が行はれるのか想像もつきませんでした。現地に着いて行はれた神事の数。本当に驚きました。此の世に生を受け七十余年此の様な神



礼拝玉串の森夫妻慰霊祭のベリリュー島

事を見せて頂いたのは初めてでした。本当に亡き諸先輩達もさぞ満足している事と思います。私からも心より青年会の皆様に御礼申し上げます。戦後五十年をへて段々うすれゆく終戦時の事を貴会達青年会の方々の力で後生迄伝へていって下さる様お願い致します。

今後共神道青年会の益々の発展を御祈りしつつペンをおきます。

右御礼迄

度会郡南島町 森 茂生・幸美



交流会の招いての方々のパラオサクラ会

我々は大矢知廣声社と言う会を作り、郷社「長倉神社」に奉仕する楽人です。

現在メンバーは七人で、会は明治の頃我々の先輩が始められて以来、地域の活動に奉仕しています。

今回、戦没者の関係で無く、神職でも無い我々が友好団に参加するきっかけは神道青年会会長の村尾宮司が長倉神社も兼務して戴いている関係で、今回の慰霊団の計画に当たり祭典に音楽が欲しいとの打診が有りました。(ただしこれは奉仕で有り、参加費は各自負担との条件が有りました。)

各メンバーに賛否を確認したら

『参加したい』『パラオに行きたい』との事で全員参加になりました。会長と話が進むにつれ、文化交流会に何か善い催し物がないか雑談している中で、毎年長倉神社に奉納している獅子舞を現地の人々に見てもらうのも良いではないか? 日本古来の音楽の笛や太鼓を聞いてもらうのも良いではないか? と言う様な雑談話がたくさん拍子で進み、予定表作成時には「ライオンダンス」と言う名前まで付けられ、前座のつもりがメインイベントの位置まで進んでいました。こうなると、



あまり無様な物ではないかと思ひ四苦八苦した末、完成したのが出発二日前で練習も行ない準備万端やっとの思いで出発日を迎える事が出来ました。

しかし二日目の午後バベルダオブ島とコロール島を結ぶ「KBブリッジ」が崩壊し、コロール島の電気・水道等がストップし、翌日は学校まで休校になりました。三日目の文化交流会は全て中止と言う事で、メンバーの苦労が水の泡となる所予定を変更し、四日目のベリリュー島にて慰霊祭に奉納が出来ました。現地の沢山の人々に『日本の心』を見てもらえなかったことは、大変



神事を終えて村尾会長と大矢知廣声会

残念で『友好』と言う掛け橋が出来なかつた事に心残りがありました。

南の島「パラオ」を空から見た第一印象は、海がすごく美しく、透き通っていました。二日目の午後フリータイム、まずホテルの前の海に潜ってサンゴ礁や熱帯魚と戯れました。またこの様な美しい国『パラオ共和国』と『三重県』が友好提携を結ばれた事は三重県人として大変嬉しく思いました。パラオは蒸し暑いと聞いていましたが、二日目のコロール島の慰霊祭は無風状態、しかも前夜からの大雨で湿度は饅登りで白衣や狩衣までも汗をいっぱい吸い込んでしまい、ホテ

ルの部屋での乾燥もなかなか乾きませんでした。三日目はこの季節には珍しく曇のち雨で蒸し暑い一日でした。

しかし四日目は南国らしく太陽の日差しが強くやっパラオに来た感じがしました。その日差しを浴びながらベリリュー島の激戦地を見学し、その夜パラオの戦争経験者の方々との座談会にて、イナボ・イナボさんが英霊の方々と最後に会話をする場面『靖国神社に来て下さい。靖国神社で逢いましょう。』と言う事を話されました。私は胸が熱くなり、五十数年前本土より遠く離れた所で日本の為に戦い亡くなられた英霊の方々の事を思うと、二度と戦争はしてはいけない。この事を子や孫に教えていかなければ、今回の慰霊友好団に参加した意義が無くなる思いがしました。

今でもこの美しい島々のあちこちで戦争の残骸がそのまま残っている。いや残している事は戦争を知らない私には、すばらしい贈り物をパラオの人々より贈られた気がしました。この慰霊友好団に参加出来、無事終わりました事に感謝し、これからの人生に役立てたいと思います。

四日市市 伊藤 豪 俊



交流座談会

パラオの戦友からのメッセージ

交流座談会には、政府顧問コロー

ル島酋長のイナボ・イナボ氏、ペリ  
リニュー島女酋長オキヤマ・トヨミさ  
ん、パラオクラ会のシゲオ・テオ  
氏、ウエキ・ミノル氏の4名の出  
席をいただき、それぞれに当時の様  
子や御英霊に対する熱い思いを語っ  
ていただいた。出席遺族の方々は、  
日本では聞くことのできない当時の  
貴重な話や、五十年間疑問に思っ  
ていた丁寧な日本語で答えていただ  
いて、予想以上の内容の濃い座談  
会となった。ここでは特に一同に深  
い感銘を与えたイナボ氏の挨拶を



御英霊への熱い思いを語るイナボ氏

9月29日、マカラル島  
の隣に高射砲部隊がいました。そ  
の隣には、電波通信隊がいました。  
アメリカ軍はそれを目標にして毎日  
爆撃にきました。  
敵に上陸されても簡単に海岸線  
をとられないように、私達は毎日タ  
コツボを掘って塹壕を造っていまし  
た。その時、私達の部隊にはパラ  
オの人々もいました。日本の兵  
隊も多くいました。激しい空襲だっ  
たので日本の兵隊も沢山が死んだ  
り、負傷したのです。その時に、

当時私はパラオ本島において、  
パラオ挺身隊の一員として森川部  
隊の中の対戦車部隊の分隊長やっ  
ておりました。この部隊は敵が上陸  
した時に、爆薬を背中につけて敵  
の戦車の下にもぐって肉弾攻撃す  
る切り込み部隊でした。

アメリカ軍のペリリニュー島上陸後、  
情報によると敵が東の海岸に上陸  
するだろうという事で、海岸線にす  
といたのです。その時に私の部隊の  
横には機関銃部隊がいました。そ  
の隣に高射砲部隊がいました。そ  
の隣には、電波通信隊がいました。  
アメリカ軍はそれを目標にして毎日  
爆撃にきました。

敵に上陸されても簡単に海岸線  
をとられないように、私達は毎日タ  
コツボを掘って塹壕を造っていまし  
た。その時、私達の部隊にはパラ  
オの人々もいました。日本の兵  
隊も多くいました。激しい空襲だっ  
たので日本の兵隊も沢山が死んだ  
り、負傷したのです。その時に、

ですか。  
私はこの前名古屋と福岡と靖国  
神社で行われた終戦五十周年記念  
式典に招待されて行ったわけです。  
私はそこでこの話をしました。『何  
故ですか?』って。



ペリリニュー島合同墓地の各部隊の慰霊碑



パラオには三十以上の慰霊碑が建立

また学校の生徒から、  
『今まで反対の事ばかり教えられた  
り見たりしてきましたが、あなたが  
日本に来て話をしてくれて初めて分  
かりました。』という手紙も多くな  
りました。皆さんが来るからこ  
こに少し持って来ましたが、私の家  
にはまだ沢山手紙があります。

『総理大臣も日本の為に亡くなら  
れた人々の為にぜひお参りして欲し  
い』  
『今まで反対の事ばかり教えられた  
り見たりしてきましたが、あなたが  
日本に来て話をしてくれて初めて分  
かりました。』という手紙も多くな  
りました。皆さんが来るからこ  
こに少し持って来ましたが、私の家  
にはまだ沢山手紙があります。

私は大変喜んだのは、これは日  
本を守る国民会議が発行している  
『日本の息吹』という雑誌ですが、  
この九月号に総理大臣が八月十五  
日にお参りに行ったという記事があ  
りました。総理大臣が堂々と靖国  
神社に参拝すると書いてあります。  
私は何度も読み返しました。もうひ  
とつここに天皇陛下が栃木県の護  
国神社に参拝する記事もありまし  
た。



今もパラオの海に沈むゼロ戦

でも私の戦友達も、今ではおそ  
らく安心しておやすみいただいでい  
ると思います。  
ありがとうございます。



現地の方々の参列を得て斎行されたコロール島慰霊祭(直会)

だから私はこの記事が載った本を  
いつも大事に持っています。  
私からいわせれば、総理大臣が  
靖国神社に参拝に来て、天皇陛下  
が護国神社にお参りするなら、日  
本はもう平和です。日本人の中は  
他にはいろいろ言う人がいると聞き  
ます。どこにでもいますよ。でもい  
ちいち聞いていたら切りがないです  
よ。

私は、去年の八月十五日終戦の  
日に靖国神社に参拝しました。で  
も、当時の総理大臣はお参りしま  
せんでした。閣僚の方々も誰もお  
参りに来ませんでした。卑怯ですよ。  
死んだ方々を何で侮辱するのですか。  
何ですか。

た。だから私は日本に行く度に靖  
国神社にお参りするので。戦友  
にそう言われたから。  
ところが日本では反対に、日本  
人が靖国神社に行くことを反対し  
ている人がいると聞きました。日本  
の総理大臣も靖国神社に行かない  
のは何故ですか。何故ですか。日  
本の兵隊は皆若かったのです。日  
本の為に自分の短い命を捧げたの  
に、何で尊敬しないのですか。戦  
争に負けたから? 戦争に勝って  
も負けても自分お国の為だから、ど  
この国でもそういう人達を尊敬して  
います。どこの国でもそうしている  
のに、何故日本の国はそうしないの  
か。

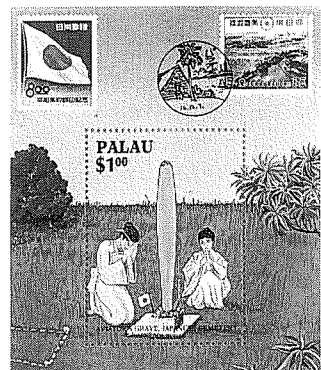
私は終戦から三十年たって、やっ  
と初めて日本に来ることができまし  
た。親しい日本兵が別れる時に、  
私に「勝っても負けても、いずれ戦  
争は終わります。平和が来ます。  
その時も日本に来ることがあった  
ら靖国神社に……(涙ぐむ) 会い  
に来て下さい。」この言葉がまだ  
に耳に残っています。今日までその  
出来事はずっと頭を離れた事あり  
ません。



遺族から質問が相次いだ座談会

今この平和な時代ではなかなか見  
る光景ではありません。人が死にか  
けている時に「お母さん」「天皇陛  
下万歳」といっていました。当時  
私は十九才でしたのでこたえました。  
その後、怪我の重い負傷兵は陸  
軍病院に看護兵が連れて行きました。  
親しい日本兵が別れる時に、  
私に「勝っても負けても、いずれ戦  
争は終わります。平和が来ます。  
その時も日本に来ることがあった  
ら靖国神社に……(涙ぐむ) 会い  
に来て下さい。」この言葉がまだ  
に耳に残っています。今日までその  
出来事はずっと頭を離れた事あり  
ません。

皆死ぬ前に「天皇陛下万歳」「お  
母さん」と叫ぶのを私は、この耳で  
聞いているのです。  
今この平和な時代ではなかなか見  
る光景ではありません。人が死にか  
けている時に「お母さん」「天皇陛  
下万歳」といっていました。当時  
私は十九才でしたのでこたえました。  
その後、怪我の重い負傷兵は陸  
軍病院に看護兵が連れて行きました。  
親しい日本兵が別れる時に、  
私に「勝っても負けても、いずれ戦  
争は終わります。平和が来ます。  
その時も日本に来ることがあった  
ら靖国神社に……(涙ぐむ) 会い  
に来て下さい。」この言葉がまだ  
に耳に残っています。今日までその  
出来事はずっと頭を離れた事あり  
ません。



日本の慰霊を記念して発行された切手



パラオ慰霊友好団  
協賛者御芳名  
〔敬称略〕

三重県護国神社

宮司 宇治土公 貞幹  
(第四代会長)  
津市広明町

若宮八幡神社

宮司 岡野 倭文彦  
(第六代会長)  
一志郡美杉村

津八幡宮

宮司 石上紀男  
(第十代会長)  
津市八幡町

頭之宮四方神社

禰宜村 田正和  
(第十四代会長)  
度会郡大内山村

多賀大社

宮司 中野 幸彦  
(第九代会長)  
滋賀県犬上郡多賀町

引本神社

宮司 森本 巖  
(第十三代会長)  
北牟婁郡海山町

上野神社

宮司 川島 康治  
安芸郡河芸町

神宮

禰宜 秦 正彦  
伊勢市宇治館町

飯野神社

宮司 佐野 方比古  
鈴鹿市三日市

小川神社

宮司 山下 久夫  
鈴鹿市若松中

春日神社

宮司 神田 信忠  
(第七代会長)  
阿山郡阿山町

二見興玉神社

宮司 片岡 昭雄  
度会郡二見町

志氏神社

宮司 富永 主税  
(第十二代会長)  
四日市市大宮町

三吉神社

禰宜 辰 守弘  
秋田県秋田市太平八田

椿大神社

宮司 山本 行隆  
(第五代会長)  
鈴鹿市山本町

高岡神社

禰宜 喜田川 忠之  
(第八代会長)  
一志郡一志町

三重県護国神社

禰宜 原 光夫  
津市広明町

耳常神社

宮司 増田 秀樹  
(第十六代会長)  
三重郡菰野町

洲崎浜宮神明神社

宮司 林 齋典  
四日市市海山道町

宇賀多神社

宮司 西尾 拓也  
志摩郡阿児町

多度大社

禰宜 野野 神林 重成  
野辺野神社 禰宜 福本 孝臣  
洲崎浜宮神明神社 禰宜 林 一翁  
猿田彦神社 禰宜 藤林 茂樹  
神宮 出仕 小内 智洋  
立野 智洋

高向大社

宮司 大西 利浩  
若宮八幡神社 禰宜 森口 健  
鷯川原神社 禰宜 内田 良典  
穴師神社 宮司 世古 誠  
頭之宮四方神社 禰宜 向井 敏通  
洲崎浜宮神明神社 禰宜 中里 貴彦  
林 加納 秀典  
篠田 和久

酒井神社

宮司 服部 哲夫  
鈴鹿市徳居町

多度大社

禰宜 塚原 徳生  
桑名郡多度町

江島若宮八幡神社

宮司 前川 栄次  
大村神社 宮司 金山 修

比々岐神社

禰宜 内保 隆幸  
比々岐神社 禰宜 篠田 和久  
加納 克也  
林 加納 秀典

加富神社

禰宜 馬場 明德  
四日市市采女町

三重県神社庁

庁長 片岡 昭雄  
津市鳥居町

多度大社

禰宜 瀬尾 好弘  
飯沼 喜規  
古川 幸宏  
榎川 重成  
榎野 直裕  
伊藤 彰教  
中野 彦彦  
西野 哲展  
見垣 文敏  
木村 寛

野辺野神社

禰宜 山中 茂理  
野辺野神社 禰宜 小林 市茂  
城南神社 禰宜 松永 栄甫  
三重県護国神社 禰宜 中野 雅史  
二見興玉神社 禰宜 松本 光久  
山本 行秀  
小西 康彦  
竹内 理

宇流富志祢神社

宮司 中森 孝栄  
名張市平尾

川嶋 政典 四日市市北野町  
糺谷登喜子 伊勢市中之町  
奥野 浩史 伊勢市神久  
嶋田 智郁 伊勢市桜ヶ丘  
(神道青年会役員)

深田神社

禰宜 樋口 比呂磨  
竹大興杼神社 禰宜 森 広樹  
八ツ山神社 禰宜 新地 義孝

珂夫賀神社

禰宜 小村 桂太  
珂夫賀神社 禰宜 小村 桂太  
北畠神社 禰宜 橋本 正明  
阿田和神社 宮司 宮地 秀直

石部神社

宮司 館 昭房  
四日市市市場町

飛鳥神社

宮司 村尾 憲一  
宮 宮 堀川 孝雄  
宮 葦津 健次郎

飛鳥神社

宮司 村尾 憲一  
宮 宮 堀川 孝雄  
宮 葦津 健次郎

阿田和神社

宮司 宮地 秀直  
阿田和神社 宮司 宮地 秀直



### 〈参加会員スナップ集〉



ホテルにて翌日の慰霊祭打ち合せ



出発前の緊張したひと時(会長、伊藤・種村副会長、原理事)



ペリリュー島慰霊祭準備におわれる(会長・福田・山路理事)



ペリリュー島戦跡にて(種村副会長・平野・嵯峨井理事)



演武を終えてホッと一息の伊藤副会長、山路理事



文部省にてダルマ落としの妙技を披露する福田理事



ロックアイランドのすばらしい風景に心踊った会長始め一同

### パラオ慰霊友好団参加者名簿

	名 前	生年月日	住 所	備 考
1	村 尾 憲 一	昭32. 2. 16	四日市市松寺1-2-10	神道青年会会長 飛鳥神社・宮司
2	伊 藤 智	昭34. 9. 1	津市広明町387	〃 副会長 三重県護国神社・権禰宜
3	種 村 睦	昭34. 12. 14	員弁郡員弁町北金井1637-25	〃 副会長 金井神社・宮司
4	嵯峨井 和 風	昭36. 3. 15	桑名市吉之丸 9	〃 理事 鎮国守国神社・宮司
5	福 田 和 人	昭36. 9. 29	度会郡二見町大字江575	〃 理事 二見興玉神社・権禰宜
6	山 路 太 三	昭36. 5. 12	志摩郡磯部町恵利原165-35	〃 理事 磯部神社・宮司
7	平 野 直 裕	昭41. 2. 3	桑名郡多度町多度1681	〃 理事 多度大社・権禰宜
8	原 忠 照	昭44. 8. 3	四日市市赤堀2-9-8	〃 理事 八阪神社・権禰宜
9	山 田 林 一	昭 6. 9. 21	四日市市大矢知町2535	長倉神社楽人
10	山 田 征 吾	昭20. 1. 2	四日市市大矢知町1075-2	〃
11	伊 藤 和 生	昭26. 5. 6	四日市市大矢知町1250-1	〃
12	伊 藤 豪 俊	昭26. 6. 30	四日市市大矢知町2586	〃
13	伊 藤 寿 一	昭26. 4. 9	四日市市大矢知町2587-1	〃
14	伊 藤 一 彦	昭30. 2. 17	四日市市大矢知町2644-1	〃
15	松 永 栄 治	昭42. 2. 15	四日市市大矢知町320-4	〃
16	木 崎 雄二郎	大13. 10. 15	鈴鹿郡関町大字新所1176	御遺族関係者
17	中 村 文 一	昭10. 1. 1	津市大字半田1774	〃
18	加 藤 修 幸	昭 2. 9. 1	志摩郡阿児町立神1784-2	〃
19	加 藤 すみへ	昭 4. 9. 18	志摩郡阿児町立神1784-2	〃
20	山 本 靖 明	昭10. 12. 1	志摩郡志摩町片田2678-1	〃
21	米 澤 文 男	昭15. 2. 4	名古屋市緑区鳴海町字上汐田12-1	〃
22	高 橋 睦 夫	昭 8. 5. 5	四日市市松寺2-15-7	〃
23	市 川 ちか子	昭16. 9. 5	四日市市堂ヶ山町664-2	〃
24	中 上 さ よ	昭12. 4. 20	四日市市浜町6-24	〃
25	森 茂 生	大14. 1. 2	度会郡南島町阿曾浦143	〃
26	森 幸 美	昭 7. 7. 31	度会郡南島町阿曾浦143	〃